

発行日 令和 5 年 3 月 25 日

咲体大学

神奈川県

保護者会会報

タイトルロゴ 蒔谷 蘆 聖

2023

想いが未来を創る

神奈川県保護者会の皆様へ



日本体育大学
学長
石井 隆憲

神奈川県保護者会の皆様、平素は本学の教育に対しまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、2022年度は対面授業を実施し、学生が学食で分散するように、イレギュラーな休み時間を設定しました。その結果、我々の想定した通り、学内でのコロナ感染を阻止することができました。さらに、今年度は7年に1度の大学の状況を評価する認証評価を日本高等教育評価機構より受審しました。その結果、優れた点として特に評価できるものが5点ありました。その中の一つとして、学生に情報を送るN-passの有効性が非常に高いという評価を受けました。コロナ禍で十分に効果を発揮したN-passなので、この経験を維持することは、新しい教育の環境を作り上げることに繋がると考えています。

ところで、2023年4月からは、授業時間帯を元に戻します。1時限目の始まりは9時20分ですが、昼休みを50分間取ることになりました。学食が混雑することが予想されるため、キッチンカーの導入を予定しています。これによって、食事のバリエーションも増える可能性があります。

また、授業についても、概ねコロナ前の授業体制に戻していきます。ただし、N-passの有効性を維持していくために、ゴールデンウィーク期間中は、一部の授業を除いてN-passによるメディア授業を実施します。加えて、国際化をより推進していくために、15回の授業の中で1回は英語による授業をおこなう試みを開始します。

まだまだ道のりは遠いですが、大学教育の充実のために、改革を続けて参りますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



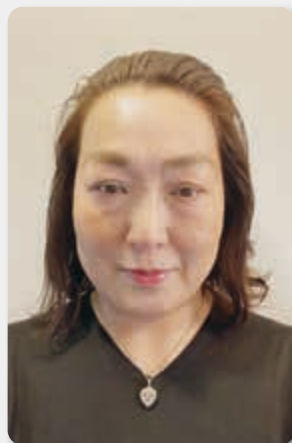
神奈川県同窓会
会長
山口 隆

会長職を仰せつかって、来年度が任期最後の年となりました。コロナ禍の影響から同窓会として計画していた各種事業等が殆ど実施できない状況で今日まで至ってしまったことは大変残念に思っております。

また、保護者や学生の皆様方との交流も最低限のものであり、本来ならば更なる発展、充実を目指すべき重要課題と承知しております。

同窓会事業としては、各地区会長、事務局との会議は感染防止に配慮しながら予定通り進めてきました。事業の一つである「就職セミナー」を本年度簡略した形態でしたが、保護者会のご協力をいただき実施することができました。ただ参加学生が1名であったことは残念であり、大きな課題として残りました。

また、本年度は教育実習生との面談形式での指導が大学より許可され、お互いが顔を見ながら実習できたことは喜ばしいことでした。今後は<ウィズコロナ>の中で、例年に近い形態で各々の活動が再開できるよう、創意工夫していきたいと思っております。



神奈川県保護者会
会長
鈴木 晴美

保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より神奈川県保護者会活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

厚くお礼申し上げます。2022年6月より1年間会長を務めさせていただく鈴木と申します、よろしくお願いいたします。

WHOが2020年1月31日に新型コロナウイルスについて緊急事態を宣言しました。

まだまだ制約もありますが今のような大学生活を過ごせるようになったこと、授業や実習が無くなり落胆していた学生たちの気持ちを思うとうれしい気持ちでいっぱいです。保護者会の活動におきましても昨年6月には3年ぶりに総会・健志台キャンパス見学会・体育学部の河野徳良准教授による講演、11月には世田谷キャンパス見学会・体育学部の荻 浩三教授による講演を開催することができました。

どちらも多くのご出席をいただき役員一同お礼を申し上げますとともに、これからの活動の励みにと考えております。そして大学と連携しながら学生や保護者の皆様にプラスになるよう活動を続けていく所存です。今後ともご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、日本体育大学の益々のご発展と皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

卒業式

令和4年3月15日(火)

今年の卒業式は、まだコロナ禍の混乱が残る中での卒業式ではありましたが、学部別に時間をずらし、2部制で無事行われました。残念ながら保護者等の出席は叶いませんでしたが、式典の様子はYouTubeでも配信され、晴れやかな正装に身を包んだ子ども達の笑顔が溢れていました。ですが、どこか学生としての最後の大学を、名残惜しそうにする子ども達に、親としても、春からそれぞれの道へ踏み出すという頼もしさと共に、少しの寂しさを感じました。

思えば、4年間の日々の中で、多くの恩師、先輩、仲間と出会うことができました。その支えが大きな糧となり、この4年間で大きく成長してくれたと感じています。このかけがえのない経験を胸に、将来に向けて大きく羽ばたいて欲しいと願うばかりです。

保護者としても、日本体育大学に通う我が子を通して、色々な感動と一緒に味わうことができました。本当にありがとうございました。



入学式

令和4年4月3日(日)

令和4年4月3日世田谷キャンパスにて入学式が執り行われました。

感染予防の観点から、午前の部では体育学部、午後の部ではその他の学部、学科に分かれての入学式となりました。

コロナ禍の中で保護者1名の参加も許可され、親子共に日体大生としての自覚、責任、感謝が芽生えた事と思います。

新入生が希望を胸に活躍される事を期待します。



歓迎の辞 高木美帆さん
新入生宣誓 藤波朱理さん

保護者会総会レポート

令和4年6月18日(土)

令和4年6月18日、健志台キャンパスにて、神奈川県保護者会総会が、3年ぶりに開催されました。

新型コロナウイルス感染予防のため、学生達もなかなかキャンパス内に入れない日々でしたが、対面授業も始まり、ようやく通常の学生生活が送れるようになりました。

それに伴い、感染対策を行いながら、保護者会も開催する事ができ、当日は、(90名)の保護者の皆様が出席され、一部:講話・講演会、二部:総会、三部:キャンパス見学会の三部構成で行われました。

〈第一部 講話・講演会〉

大学職員の北川浩氏より、学生支援について(生活・学習・就職・教職・ボランティア・交際交流、留学・健康管理センター)のご講話をいただきました。

新1年生をはじめ、保護者にとって、とても興味深い内容でした。

続いての講演会は、

体育学部体育学科 河野徳良准教授より、『東京オリンピック野球日本代表～トレーナーから感じたこと』と題して、お話をいた



だきました。

1時間と短い時間でしたが、河野先生の生い立ち、ご家族の話から始まり、WBCのヘッドトレーナーとして日本代表の一員でご活躍され、ご自身のトレーナー時代の秘話を笑いも取り入れながら、トレーナーからの視点でお話しいただきました。

一流選手の共通点は、明確な目標・道を持っていて、それに対して当然失敗もする事もあるが、必ず誰もが諦めていない。

けがをしても、モチベーションが違う。自分の価値をしっかり理解して自分はどうかあるべきか…。という事を感じさせてくれた。

ヘッドトレーナーとして、選手の側近ならではのお話は、とても面白く関心させられました。

先生の授業を受けられる学生たちを羨ましく思えました。

〈第二部 総会〉

ご来賓の方々からご挨拶をいただき、2021年度の活動報告、収支決算報告、会計監査報告がなされ、2022年度の活

動計画(案)、予算(案)審議が行われました。

2022年度神奈川県保護者会会長に、鈴木晴美氏が承認のもと就任し、新役員とともに新体制が発足されました。

〈第三部 キャンパス見学会〉

後半、5つのグループに分かれてのキャンパス見学では現野球部員の方が親切に引率してくださいました。

インカレの大会でも使用される陸上競技場や室内競技体育館、水球プール、アメリカンフットボール場、大阪桐蔭との練習試合が行われていた野球場…etc。広大で設備の充実した健志台キャンパスを飽きることなくゆっくり見て回りました。

大勢の学生達が様々な競技や練習に真摯に取り組む躍動感溢れる姿、時に快活に笑い、時に仲間を鼓舞するかけ声がコロナ禍での閉塞感を一気に払拭するかのようでした。

子育てもやっとひと段落と思いつつも我が子の大学生活は？部活は？勉強は？進路は？と時に沸き起こる小さな疑問や心配事が今回の保護者会に参加し解消されたように思います。また今後、保護者会を通して学生皆さまのキャンパスライフを陰ながらサポートできたらと願い役員にも登録させていただきました。



学生海外体験レポート

夢に向かって、ひたむきに

スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科
平野真悟



U23日本代表 vs U23カンボジア
代表をスクール生と観戦



Morodok Techo National Stadiumにて

1. なぜカンボジアに行ったのか。

私がカンボジアに行くことを決めた理由は2つある。

1つ目は、新型コロナウイルス感染症がなかなか収束せず、海外へ行くことを諦めざるを得ない大学生活を送っている中で、このまま大学4年目を迎え、就職することに対して抵抗があったためである。

カンボジアへ行くことを決めた2022年初旬、感染者数は減少傾向にあったものの、まだまだ海外に渡航するには高い壁があった。そのような状況の中で、海外へ行くことに対し背中を押してくれた家族には頭が上がらない。

また、カンボジアを選んだ理由は多々あるが、後述する東京ヴェルディでのインターンで出会った先輩方が、過去にカンボジアで活躍されていた経験を持ち、それが私にとっては魅力的に感じたのが1番大きな理由だと言えるだろう。

2つ目は、グローバルにサッカーに携わる仕事をしなかったからである。

大学2年生と3年生の2年間、東京ヴェルディというプロサッカークラブでインターンをしていた。

東京ヴェルディでのインターンでは、働く上で自分が何に対してやりがいを感じるのか、そして感じないのかを知る良い経験になった。

その2年間で、

①自分は改めてサッカーが好きである。

②グローバルにサッカー界で活躍する方々に強い憧れを抱く。

という自分に気づくことができた。

その2点をさらに深掘りし、自分をもっと知るためにカンボジアでサッカーコーチとして1年間自分と、そして子どもたちと向き合うことを決断した。



大会でPK戦を制した際の一枚

2. 何をしているのか。

「SOLTILO Familia Soccer School Cambodia」という日系のサッカースクールでコーチとしてインターンをしている。

記憶に新しい2022年カタールW杯の解説で脚光を浴びた、本田圭佑氏が2016年にカンボジアで設立したサッカースクールである。首都プノンペンを拠点に、インターナショナルスクールや日本人学校の子どもを中心にサッカー指導を行っている。

また、サッカー指導だけでなく、親子サッカーや合宿、代表戦の観戦など、様々なイベントも企画する。

3. 今後どう活かしていきたいか。

今後も、「グローバルにサッカー界で働く」という自分の軸は揺るがないと確信しており、その軸に沿ったチャレンジをしていきたい。1年間、カンボジアで様々な国籍の人と働いたこの経験は、今後の自分のキャリアを考える上での重要な指標になるだろう。しかし、1年間という期間はあまりにも短いと現時点では感じている。

今後も継続して海外でチャレンジし続け、自分の更なる成長へと繋げたい。

4. 最後に。

日本体育大学のスポーツマネジメント学部の2期生として2019年に入学をし、そこから4年が経とうとしている。

スポーツビジネス界をみていると、海外で活躍されている先輩方を耳にする機会はそう多くはないのが現状ではないだろうか。言わずもがな、自分はまだ何者でもない学生的身で恐縮だが、ぜひスポーツマネジメント学部の学生には海外に飛び出し、そこで実践されているスポーツビジネスを体感して欲しいと思っている。

実際カンボジアのスポーツビジネスは、全てが輝かしいとはいえないが、その現状を知ること大きな勉強であり、価値のある経験である。

カンボジアでサッカーをメインとしたスポーツビジネスに興味がある学生は、私が現在インターンをしている「SOLTILO Familia Soccer School Cambodia」でチャレンジをして欲しい。

自分の経験から、そこにはチャレンジをする環境が豊富にあると胸を張って言える。

もし興味がある方は、下記メールアドレス宛にご連絡ください。

shingo.hirano54@gmail.com

学生実習体験レポート

～救急車同乗実習を終えて～

保健医療学部
救急医療学科
小堀 幹

今回、私は横浜市旭区消防署で、救急車同乗実習を2日間行わせていただきました。

まず旭区の特徴として横浜市の中でも自然が多いものの、反面住宅街が軒並び高齢者が多いということです。

実際に緊急出動した住宅街では道幅が狭く、車体大きい救急車での通行が困難な場面が多々ありました。

仮にその傷病者が重篤な場合であれば、到着時間や搬送時間が伸びてしまうことで生死に関わってくるのではないかと危惧しました。

さらに、今回の実習期間中搬送件数の多くは高齢者でした。

現在新型コロナウイルスによって病院側の受け入れが困難となっている状態であり、高齢者の場合に容態が急変する可能性が高いため、より迅速な搬送が必要と感じました。

改善策としては近い将来、地域と連携し道路整備や、軽症の方へは電話での対応措置などを拡充していくことが急がれます。

またその他、バイタル測定の実習や指令室の見学、CPRの実施、救命救急士の方の高度な技量や丁寧な対応を肌で感じ、大変意義のある貴重な経験を積ませていただきました。実習後のある日、高齢女性が道路で転倒し、頭部から出血しましたが、偶然居合わせた私と同学部の友人で救護活動を行い、無事に救急隊に引き継ぐことができました。

このような不測の事態でも慌てず、今回の実習を含め日頃の学びのおかげで地域の人々のお役に立てることは救急救命士を目指すものとして自信となる第一歩となりました。

日体フェスティバル

令和4年11月4日(金)～11月6日(日)

今年も天気に恵まれ、健志台キャンパスにて、第55回日体フェスティバル2022が開催されました。

テーマは「獅子奮迅」。

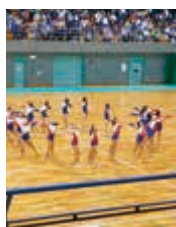
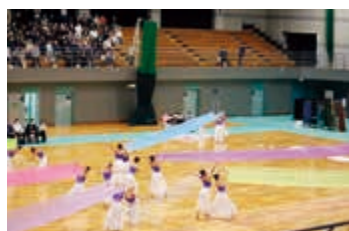
新型コロナウイルス感染症により世界が大きく変わり、新たな生活様式を取り入れ、一歩でも前へ進もうとする社会に期待を寄せてる中で、日体大からスポーツの魅力を発信するため、獅子の様に躍動的に活動する実行委員会を目指し、学生を本学のシンボルでもある獅子に見立て、猛進する様を表現し、再び活気あふれるフェスティバルをつくりたいという想いが込められていると実行委員長が話されていました。キャンパスでは、入口に横浜市消防局、神奈川県警、陸上自衛隊の見たことがない緊急車両が並びご来場の子供さんたちは、

触れたり乗れたり楽しそうでした。

また学生食堂やキッチンカーで美味しいものが堪能でき、お笑いLIVEや仮面ライダーショー、新たに考案された学生たちによる数々のパフォーマンスなど活気あるフェスティバルに戻りつつあるように見え、とても微笑ましく1日楽しく過ごせました。

これも実行委員会の学生の皆さんや大学の教職員のご尽力の賜物と感謝いたします。

来年も楽しみにしています。



第 59 回 体育研究発表実演会

2022 年 12 月 18 日 (日)

師走としては最強クラスの寒気が流れ込む。と発表された 12 月 18 日 (日) 佐賀県佐賀市の総合スポーツ施設「SAGA サンライズパーク」総合体育館で第 59 回体育研究発表実演会が開催されました。

佐賀県での開催は平成 13 年以来の 21 年ぶり。

日頃の練習・稽古・研究の成果を披露するに相応しい素晴らしい舞台でした。

約 2000 名の観客に見守られ学生達は生き生きと熱い演技

を発表してくれました。生で間近に見れる実演に、観客席からは感嘆の声と盛大な拍手が送られていました。

当日は幾つかのアクシデントに見舞われ披露を断念した部もありました。この日の悔しさをバネに今後の練習に力を注いでくれる事を願います。色々な気持ちの入り乱れる印象に残る実演会になりました。

また来年の横浜での開催を楽しみにしています。



集団行動 参加学生インタビュー

初めは、コロナ禍でなにも変化のない大学生活で、何か頑張ったと言えることが欲しいという思いから、3 年生にして集団行動に初めて参加を決めました。

実際に集団行動の練習が始まると、先生に怒鳴られ、きつい練習をしているというイメージとは異なり、学生主体で毎回の雰囲気練習していることが分かり、毎回の練習は全く苦ではありませんでした。

私はメンタルが弱く、誰かの言動やミスに引っ張られてしまいます。その為本番に向け、ミスしてもすぐに気持ちを切り替え持ち直す、という努力をしてきました。

集団行動は 1 人がミスをしたら全体の失敗となるので、少しのミスでも許されない本当に過酷なスポーツだと思います。だからこそ、成功した時には感動があり、この達成感から今後の自信に繋がるのだと思います。

大海先生は、集団行動を通して社会に出た時に普通のことの当たり前にできる人材になってほしいと仰っていましたが、この 4 ヶ月間で自分自身、とても成長できたように思います。

日本体育大学の世界一の集団行動のメンバーの一員としてこの貴重な経験ができ、本当に良かったです。

3 年 田村里恵子



就職セミナー

2022年11月27日(日)

〈 第一部 就職セミナー 〉

神奈川同窓会主催の就職セミナーでは、パネラーとして大塚一義氏（株式会社シティアクセス相模代表取締役）町田隆氏（株式会社 MAIN SAIL 代表取締役）重田修氏（川崎市立大師中学校教諭）の3人のOBをお招きしました。

就職活動について学生へ

☆学ぶ＝勉強（学ぶことの大切さ）大学の授業の中でみつけていく

☆4年間で授業をたくさん履修する

☆たくさんの人と繋がる☆資格を取得する☆講演会に行く

☆社会勉強としてアルバイトを経験する

等アドバイスを頂きました。

また親に向けて天職と敵職の違い、親の思い通りには決してならないので子どもに任せ見守ることが大切とのことでした。

この機会に子どもと向き合い本人が何をやりたいのか？どうしたいのか？確認する良いチャンスだと感じました。

〈 第二部 講演 〉 荻浩三教授による講演

『日体大生に期待するもの』という題で荻浩三教授（体育学部体育学科）に講演をしていただきました。

世間から見た日体大（生）へのイメージとは？日体大に入ったらみんなが部活（運動）

をしている。みんなが先生になる。等々、

日体大（生）への誤解や、勝手なイメージを打ち破る力の付け方など、学生に伝えていること。というところから始まり、荻教授の説得力のあるお話に何度も頷きながら真剣に聞き入っていらっしゃる保護者の方々が沢山いらっしゃいました。

後のアンケートにも、本音でお話をしていただき、とても引き込まれ胸が熱くなりました。日体大について色々とモヤモヤしていた気持ちが一気に晴れた、そんな為になる講演でした。等のご感想が多くありました。大学での学びを新たな強みに、それぞれの場所で輝ける人になって欲しいという、日体大生への多くの愛情を感じる講演でした。

懇 談 会

〈 第三部 キャンパス見学会 〉

午後からは、保護者の方々が5グループに分かれ総務部の学生の方が丁寧に世田谷キャンパスを案内していただきました。

スポーツ棟からメインアリーナをゆっくり巡りながら、柔道部の柔剛一体となる迫力ある稽古、バスケットボール部の白熱する練習試合や軽快なフットワークが釘付けになったダブルダッチの練習風景などを間近で見学いたしました。

ました。

今回、参加していただいた保護者の方からは「新しい校舎はとても明るく差し込む陽の光がとても印象的です。

開放感がとてもあるので、娘もモチベーションがあがって伸び伸びと過ごせると感じました。」と感想を述べられました。

この日はちょうど秋旻の青空と白いキャンパスのコントラストがとても鮮やかなうえ、学生達の日頃の鍛錬の様子、また充実した施設設備をととても興味深くご覧いただくことができ、大変ご満足いただけたようでした。



部活応援レポート

体操部

私たち体操部は、部員 110 名で活動しています。部員の約 8 割が大学から体操を始める初心者で構成され、それぞれが高校まで野球やサッカー、ダンスなど様々なスポーツに取り組んできました。

日々の練習では、4 年生を中心に学生主体での活動を行っています。

今年度のチームは、「志」をテーマに活動して参りました。現地の方々のご協力のもと、長野県東御市での夏期合宿を実施したり、外部での実演にも多く出演させていただきました。また、昨年 12 月に佐賀県にて開催された体育研究発表実演会にも参加し、多くの場所で体操の魅力を伝えられる活動を行えたことに感謝しています。

1 月にはプロバスケットボール B リーグの宇都宮ブレックスより実演依頼を頂き、ハーフタイムショーに出演させていただきました。また、来年度には 4 年に 1 度開催される世界体操祭への参加が決定しており、オランダのアムステルダムにて開催

される大会に向けて練習を重ねています。

私たちの体操は「世界に一つだけの集団美」をテーマに、部員 1 人 1 人が主役となって 1 つの演技を作ることを目標としています。採点を行い、順位をつけるような競技性はありませんが、見てくださる方々の心に届く演技を目指し、日々の活動に励んでいます。

11 月には 1 年間の成果を発表する場として演技発表会を開催する予定ですので、是非足を運んでいただければ幸いです。詳細は体操部ホームページよりご確認ください。

保護者の皆様には、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ボート部

平素より日体大ボート部へのご支援、ご声援の程ありがとうございます。

私は全日本大学選手権に M4+（男子舵手付きフォア）にて出場しました。これまでの全日本級での大会で順位をつけたことすらない私にとって、A final に進出できた事はこれまでの努力が一つ報われたように感じたと共に、同じクルーの 4 年生である稲津、坂東のためにも、死に物狂いで漕ぎ切ろうと決意が固まった瞬間でもありました。

そして迎えた A final は 3 位でした。初めての A final ではクルーとして持てる力を全て出し切り、メダルを獲得できた達成感と共に優勝まで 7.12 秒と大きく離された悔しさも感じさせられました。

インカレ後、代が変わり私は稲津からキャプテンを引き継ぎました。来年度の目標は個人として今年以上の結果を残すことはもちろんのこと、「全日本大学選手権において、出場する全クルーが入賞し日体大のチーム、組織としての強さを示す」ことが最大の目標です。ボート部には使命があります。

それは競技力向上と指導者の育成です。この使命を基本に目標達成に向けて取り組まなければなりません。

そのために、全体練習時間、ミーティングの時間をこれまで以上に捻出する事に取り組みます。また一人ひとりが学んだこと、感じたことを伝え合う過程で言語化する力、課題解決的思考で問題に対して粘り強く向き合える力を養えるきっかけを作れるよう励んで参ります。キャ

プテンとして至らぬ点多々あるかと思いますが、今年 1 年間精一杯取り組ませて頂きます。

今後とも日体大ボート部への変わらぬ、ご支援、ご声援の程よろしくお願い致します。インカレまでの 4 年間で振り返ると本当にあっという間でした。1 年生の頃がこの間のことのようです。入部当初から先輩方についていくことに必死だった私が卒業かと思うと時の流れの早さを実感します。

主将としてのこの 1 年間は本当に辛いことも多かったですが、良い後輩、同期がいたからこそ乗り越えられ、充実した 1 年にできたと実感しています。

1 年生と 3 年生の時のインカレでは決勝まで進みましたが、どちらもメダルを取れず悔しい思いをしてきました。このままでは終われないと今シーズンにかける思いは人 1 番強かったと思います。最後の大会で結果を残すことができ、両親の前で表彰台に立てたことは本当に嬉しかったです。ようやく少し報われたなと感じました。

後輩には今年のインカレで強い日体大を見せつけてくれることを期待しています。辛い時こそ仲間を頼り、共に乗り越えれば個人としてチームとしてより一層強くなれると思います。応援しています！

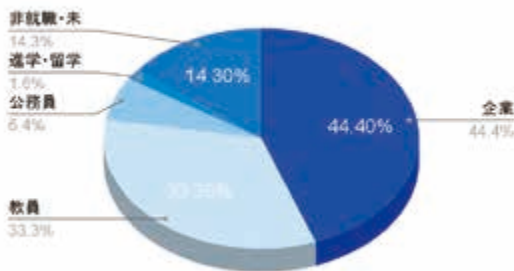


卒業後進路情報

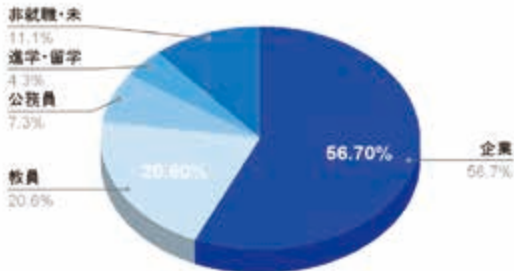
令和3年度卒業生のキャリア情報（令和5年3月1日現在）を紹介いたします。
ここでは大学ホームページに記載されている公開情報を基に保護者でグラフにまとめて再掲しています。

体育学部

健康学科

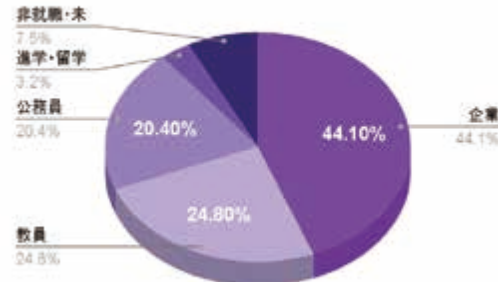


体育学科

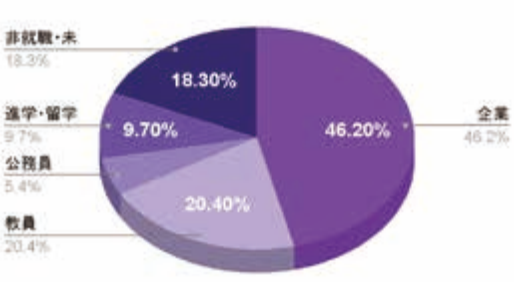


スポーツ文化学部

武道教育学科

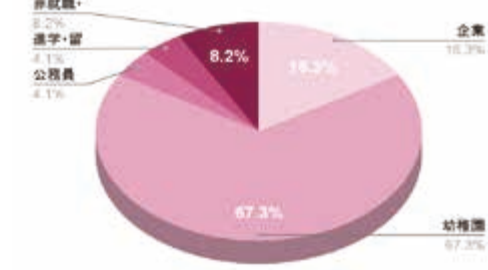


スポーツ国際学科

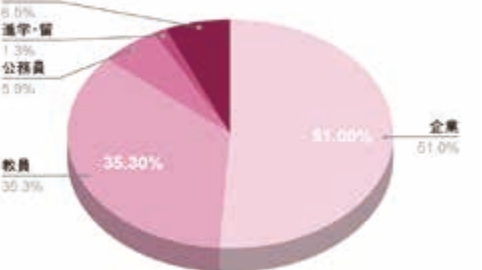


児童スポーツ教育学部

児童スポーツ教育学科・幼児教育保育コース

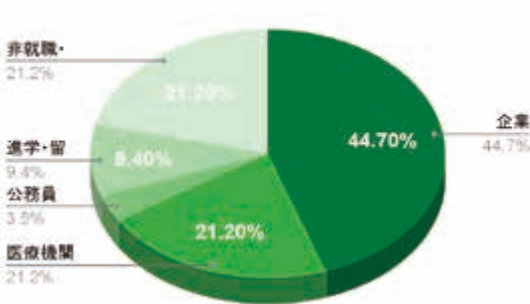


児童スポーツ教育学科・児童スポーツコース

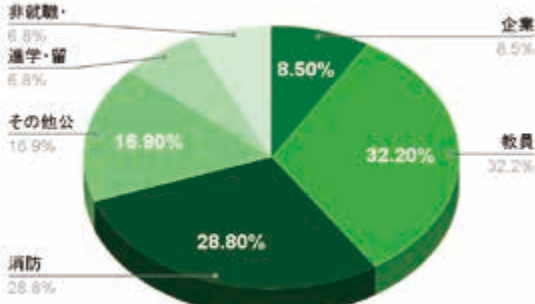


保健医療学部

整復医療学科



救急医療学科



スポーツマネジメント学部

スポーツマネジメント学科

- 目指す将来のイメージ
- ・スポーツ関連企業
 - ・プロスポーツ関係
 - ・スポーツ団体
 - ・スポーツ行政
 - ・各種スポーツクラブ

スポーツライフマネジメント学科

- 目指す将来のイメージ
- ・地域スポーツ指導者
 - ・中学校・高等学校教諭（保健体育）
 - ・社会教育主事
 - ・各種公務員
 - ・各種スポーツ団体

日本体育大学神奈川県保護者会会則

総 則

(名称及び事務局)

第1条 本会は日本体育大学神奈川県保護者会と称し、事務局を会長宅に置く。

(目的)

第2条 本会の目的は次に掲げるとおりとする。

- (1) 学生の健全なる育成を図る。
- (2) 会員相互の融和、親睦と緊密な連絡を図る。
- (3) 日本体育大学（以下「大学」という。）と会員のリアルタイム双方向通信（大学からの現況や就職、クラブ活動等、会員からの質問、意見、要望等）のパイプ役となり大学に最大限の協力をし、支援する。
- (4) 本部保護者会に協力する。

(活動)

第3条 本会は前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 広報誌等を発行する。
- (2) 会員相互の交流と親睦、情報の共有を図る。
- (3) 大学、本部保護者会及び各支部からもたらされる諸情報を収集する。
- (4) 学生の進路及び研究修養に関する支援をする。
- (5) その他必要な活動を行う。

(会員)

第4条 本会の会員は、大学（大学院を除く。）に在籍する学生の神奈川県在住の保護者又はこれに代わる者とする。

役 員

(役員)

第5条 本会は、原則として次の役員を置く。

会 長	1 名
副会長	3 名
書 記	4 名以上
総 務	4 名以上
広 報	若干名
会 計	4 名以上
監 査	2 名

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括し、会議の議長になる。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長不在のときは代理を務める。
- (3) 書記は議事を正確に記録し、各種の会議に報告する。
- (4) 総務は会議の会場手配及び懇親会の手配を担当する。
- (5) 広報は大学、本部保護者会、各支部からの情報の収集及び会報・その他の発行を担当する。
- (6) 会計は本会の会計事務をつかさどり、且つこれを正確に記録し、定例総会に報告する。
- (7) 監査は随時会計の状態を監査し、定例総会に会計監査の結果を報告する。

(選任)

第6条 役員は役員会において選出し、総会の承認を受ける。
(ただし、総会後に役員に選出された場合には、次期総会で承認を受けるものとする。)

2 同窓生は役員の3分の1以上を占めず、なお、会長にはならない。

(任期)

第7条 役員の任期は原則として1年とし、学生の規定在籍期間を越えない範囲で再任を妨げないものとする。

- 2 役員の任期は、定例総会終了後引き継ぎを完了するまでとし、会の運営が円滑に行われるよう協力するものとする。
- 3 役員に欠員が生じたときは、役員会の決議で選任補充できるものとし、その役員の任期は前任者の残任期間とする。

顧 問

第8条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は会長が役員会に諮って委嘱する。
- 3 顧問は原則として会長経験者とする。

総 会

第9条 総会は定例総会及び臨時総会とし、会長が招集する。

- 2 定例総会は年1回開催し、役員の承認、決算及び監査の報告及び承認、活動報告、次期活動案及び予算案の提示及び承認、その他重要事項について審議する。
- 3 臨時総会は会長が認めたとき、又は会員の半数以上が要望したとき、開催することができる。

(役員会)

第10条 役員会は会長、副会長、書記、総務、広報、会計及び監査をもって構成する。

- 2 会長が必要のあるときは随時役員会を開き、会務を審議決定する。

(議決)

第11条 総会及び役員会の議決は出席者の過半数の同意を得るものとする。

会 計

第12条 本会の経費は本部保護者会からの支部活動補助費、寄付金その他の収入を充てる。

(会計年度)

第13条 会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。

雑 則

(委任)

第14条 この会則に定めるものの他、定例総会開催時期等必要事項は役員会で決定する。

(総会の代替措置)

第15条 諸般の事情により定例総会開催が不可能と役員会が判断した場合は、役員会を定例総会に代わって開催できるものとし、議決事項を有効とする。

この場合、決算報告等は会報誌等に掲載し報告するものとする。

第16条 会則を変更する場合は、役員会の議を経て決定し、総会において出席者の3分の2以上の賛成によって改正することができる。

付 則

1. この会則は、平成7年4月1日から施行する。
2. 一部改正したこの会則は、平成9年4月1日から施行する。
3. 一部改正したこの会則は、平成10年4月1日から施行する。
4. 一部改正したこの会則は、平成11年4月1日から施行する。
5. 一部改正したこの会則は、平成14年4月1日から施行する。
6. 一部改正したこの会則は、平成17年4月1日から施行する。
7. 一部改正したこの会則は、平成28年4月1日から施行する。
8. 一部改正したこの会則は、令和2年4月1日から施行する。
9. 一部改正したこの会則は、令和3年4月1日から施行する。

保護者会役員の活動について

令和4年度は33名の役員で活動しました。構成は会長、副会長、会計監査、総務、書記、会計、広報です。

役員会は保護者会年間行事や同窓会協賛お手伝いなど、準備の前に1回と、定期的に月1回土曜日の午前中2時間程の会議を、健志台キャンパスの会議室で年間10回前後開催します。

各担当の主なお仕事は、総務は行事の会場準備、飲食手配、抽選会の景品購入手配など。書記は役員会の議事録作成と配信。会計は保護者会での活動経費の管理。広報は会報誌の作成と発行をメインに行事の会場案内・設営のお手伝い、キャンパス見学会の参加者同行などになります。

役員会での活動を通じ、役員会だけでなく教授陣・OBの皆様や学生たちとの接点が増え、楽しみながら「日本体育大学」を一層深く知ることができます。一緒に保護者会を盛り上げていきませんか？興味のある方は、以下メールアドレスに連絡をください。

nssukanagawahogoshakai@gmail.com

いつでも皆様の参加をお待ちしております。

予算・決算

(単位：円)

令和二年度決算報告書		
項目	収入	支出
支部活動補助費		
参加費収入等		
雑収入（銀行利息）		
前年度繰越金		
総会・懇親会費		
活動費		
会議費		
通信費		
印刷・事務費		
雑費		
予備費		
諸費支払合計		
次年度繰越金		
合計		

(単位：円)

令和三年度予算		
項目	収入	支出
支部活動補助費		
参加費収入等		
雑収入		
前年度繰越金		
総会・懇親会費		
活動費		
会議費		
通信費		
印刷・事務費		
雑費		
予備費		
諸費支払合計		
次年度繰越金		
合計		

保護者会活動事業報告

行 事

令和四年

- 6月 令和四年度総会【書面決議】
日体大 HP、保護者会支部紹介にて神奈川県
保護者会紹介、キャンパス見学会 "
特別講演会
講演会 河野徳良准教授
「東京オリンピック野球日本代表～トレーナー活動から感じたこと～」
- 10月 第98回東京箱根間往復大学駅伝予選会応援【自粛】
- 11月 第55回 日体フェスティバル【健志台キャンパス】
- 11月 就職セミナー・世田谷キャンパス見学会
卒業生とのパネルディスカッション就職セミナー
体育学部荻浩三教授による講演
- 12月 第59回 体育研究発表実演会【佐賀県佐賀市】

令和五年

- 1月 第99回東京箱根間往復大学駅伝応援【自粛】
- 3月 令和四年度保護者会会報誌発行
- 4月 入学式・保護者会紹介チラシ配布（予定）
- 6月 令和五年度総会（予定）

令和四年度保護者会役員会

令和四年

- 6月18日 第一回役員会【健志台キャンパス 百年記念館】
- 7月16日 第二回役員会【健志台キャンパス 百年記念館】
- 9月17日 第三回役員会【健志台キャンパス 百年記念館】
- 10月15日 第四回役員会【健志台キャンパス 百年記念館】
- 11月27日 第五回役員会【世田谷キャンパス 教育研修棟】
- 12月17日 第六回役員会【かながわ労働プラザ】

令和五年

- 1月21日 第七回役員会【健志台キャンパス 百年記念館】
- 3月 第八回役員会（予定）
- 4月 第九回役員会（予定）
- 5月 第十回役員会（予定）



編後記

今年も会報誌の編集にあたり多くの皆様の協力を賜りました。本当にありがとうございました。また保護者同士助け合い、共に活動できたことに感謝申し上げます。会報誌作成を通して、大学での子どもたちのかけがえのない成長に関わることができ、心に残る経験となりました。保護者会として、いかなる状況下でも頑張っている子どもたちの前途への希望、結束、そして日本体育大学の存在意義を、お伝えできればと願っております。



日本体育大学保護者会

<http://www.nssu-apg.jp/>

全国の保護者会支部から活動報告が寄せられます。

日体大 <http://www.nittai.ac.jp/> からリンクされています。

